

# 「ている」は深い!?

早稲田大学教授  
森山卓郎 もりやまたくろう

## 駅

に電車がガタンガタンと入ってきたとき、駅のアナウンスが「電車が到着しております。白線の内側に下がってください」というのを聞いた。この「到着している」は、「到着しつつある」に近い、進行中の意味だろう。しかし、私の語感では、「電車が到着している」というと、「到着後の状態」を表すように思う。だから「あれ?」と思った。どうですか?

品詞としては、「動詞・連用形＋て（接続助詞）＋いる（補助動詞・終止形）」だ。しかし、そんな品詞分解をするだけでわかったつもりになるとすると、それは「深い理解」にはならない。どんな意味かが重要である。

「ている」の意味はおもしろい。「食べている」は、普通、食事中の意味を表す（「すでに食べている」のように食事後の意味を表すこともあるが）。一般に、「何をするか」という表現に「ている」が付くと、「して

いる最中」を表す。ただし、条件によっては、その動きをした後の状態を表すこともある。一方、「どうなるか」という表現に「ている」が付くと、「した後の結果」を表すことが多い。「到着する」も「到着状態になった後」を普通は表す。だから、例えば、「魚を焼いている」は進行中、「魚が焼けている」は結果を表すのが普通である。

方言によっては、「しよる」系の表現（＝進行中）と「しとる」系の表現（＝結果）というように、「ている」の意味について使い分けがある場合もある。「虫が死によう」は「死にかけ」、「虫が死んだら」は死んだ後を表すのである。「ている」だって、なんだか深いのである。

文章の解釈に関わることもある。例えば、「親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。」という『坊っちゃん』（夏目漱石）の冒頭はどう解釈されるだろう。「今まで損ばかりしてきた」という結果の

状態として読むことが多いのかもしれないが、「子どものときから、今までずっと損ばかりしていて、今も損をしている」という進行中の意味で読むこともできる。ちなみに四国での先生時代の月給は四十円、いろんな目にあって、結局赤シャツたちをやっつけて、東京に戻ってからの技手の月給は二十五円。語りの時点の意識はどうなのだろう。冒頭の「損ばかりしている」の意味の解釈は、微妙にこの小説の全体の読み方にも関わってくる。

何かを見つけ、背景、根拠などをしっかり考えるには、出発点に、適切な「問い・課題」をもつことが大切だ。「ている」の解釈のようなことも問いや課題になることがある。もちろん答えが一つに決まらないこともある。

深い学びのあり方が、今、改めて問われている。——あ、この「ている」は進行中? 結果?